

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第4回 雇用就労部会	
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和5年3月8日(水) 18:00~19:30	
開催場所	釧路市役所防災庁舎 5階会議室A	
出席者	部会員	出席 22名 和泉部会長 (はしどいワークラボりれいと)、梅野副部会長 (音羽協働センター)、原田副部会長 (くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぷれん)、竹谷 (くしろジョブトレーニングセンターあらんじえ)、本間 (ノーサイド)、行木 (きぼう・きずな・アライブ)、松橋 (島屋ゴマサーカス)、境 (釧路創生会就労継続支援A型事業所)、種村 (すてっぷ)、上村 (あいある)、小西 (サンフラワー)、今野 (さわやか釧路)、斉藤 (illumini)、神野 (手と手)、原田 (さはみす)、柁木 (社会就労センターらびい)、宮田 (すまいる 946)、若杉 (オフィスきらり)、小形 (鶴野支援学校)、成田 (中標津支援学校)、宮下 (ハローワーク)、今野 (くしろジョブリカバリーセンターぷろぐれ) 議事録 原田 (さはみす)、柁木 (社会就労センターらびい) (敬称略)
	その他	無し
	傍聴者	無し
	事務局	出席4名 障がい福祉課 辻野、船坂、小林 釧路市障がい者基幹相談支援センター 近藤 (敬称略)
会議次第	1. 開会 挨拶 雇用就労部会長 和泉 宣也 2. 議事 (1) 令和4年度雇用就労部会活動報告 (2) アンケート集計結果の報告 (3) 参加者から (4) まとめ (5) その他・事務連絡等 3. 閉会	

議 事 内 容

1. 開会

挨拶 雇用就労部会長 和泉 宣也

○部会長より

釧路市障がい者自立支援協議会の部会運営は今まで障がい者基幹相談支援センターが中心的な役割を担ってきたが、令和3年度の自立支援協議会の中で部会運営の在り方が協議され、令和4年度から部会長・副部会長を中心とした部会運営に変わった。今回の雇用就労部会は今年度の振り返りと、次年度の活動計画の方向性を考えていく。

2. 議事

(1) 令和4年度雇用就労部会活動報告

・今年度の振り返りについて

今年度の雇用就労部会は4回目のみ参集で実施し、残りの3回はzoomで実施した。

1回目は8月31日(水)に開催され、部会員の顔合わせや各事業所の取り組みを共有する事から始め、事前に提出したアンケートをもとに3つのグループに分かれグループワークを実施している。各グループで事業所での課題や困難さを出し、皆で共有し、学びにつなげていく事ができた。特に「老い」、「意欲」について多くの事業所が支援の方策を模索している事が理解できた。

2回目は10月13日(木)に開催され、雇用就労部会の年間計画「差別禁止法の改正ポイント・虐待防止を学ぶ」の内容について、自立センターの高谷さふみ所長による講演「障がい者虐待防止に係る取り組みの更なる推進について」を行っている。虐待を未然に防ぐためにアセスメントの重要性を共有する事ができた。

3回目は1月18日(水)に開催され、雇用就労部会の年間計画「障がい者総合支援法等の改正等について」の内容について「障がい者総合支援法等の改正等について」というテーマで厚生労働省社会援護局障害保健福祉部の日高幸哉課長補佐によるビデオ講演を行っている。今後の法改正の大きなポイントとして就労選択支援事業が導入される。本人の希望、能力や適正の評価、仕事中の配慮点の整理など、必要なアセスメントを行った上で事業者と調整し、就労系サービスの利用や一般就労を考えていく事業となっている。次年度も大きく扱っていかねばいけない部分と思われる。

(2) アンケート集計結果の報告

メールで95事業所に送付し44事業所から回答を頂いている。集計結果を参考に場所の確保や感染拡大状況などをふまえ、開催日時を決定する。

(3) 参加者から

・新しい教師は福祉事業所が何をするとところか詳しく分からない部分もあるので、特別支援学校と事業所がお互い見学しあえるような環境が出来れば良いのではないかと。

・コロナ禍の中で他事業所がどのような行事を行っていたのかを知りたい。以前は介護分野で勤めておりケアマネ同士の情報交換や繋がりが多かったと思う。就労系の事業所では

議 事 内 容

管理者同士の繋がりが少なく感じる。

- ・支援学校の見学は他地域では実施されており、実際に雇用に繋がっているケースもある。

- ・長く利用されている方が減ってきている。新規の利用者は増えてはいるが、以前のように満度で利用される方は減っている。

- ・令和4年度で利用者は6名増となっているが定員にはまだ達していない状況。委託作業が少しずつ増えてきている。

- ・施設外就労先がなくなる事が決まり、利用者の作業を確保する事に苦労している。

- ・就労選択支援事業が導入される事となっているが、法律上で決まっていない事もあり家族への説明は難しい現状がある。コロナ禍の中 zoom で学校の見学会などを実施しているがなかなか難しい状況であった。今後は以前の様に大人数での実施は難しいが個別での対応は今後可能となると思われる。

- ・出勤率は良くコロナ禍でも売り上げが上がっているが、利用者の高齢化が進んでおり、力仕事に行ける利用者が固定されてしまっている。施設外就労先が何件もあるが、職員数が少なく、応募しても人が集まらない現状があり対応が難しい。

- ・B型を途中で止める方にはぶろぐれの利用を勧めてほしい。自立訓練を実施しており、幅広く受け入れを行っている。

- ・A型やB型でトレーニングを積み、私たちの就労移行を通らずに一般企業へ就職をされている方もおり、あらんじえやあらんじえⅡの新規利用者は減っているのが実情。私たちの事業所はあらんじえに2作業班、あらんじえⅡに2作業班、就労移行としては4つの作業班があり、利用者のニーズに合わせて所属選択ができるのが強み。利用開始後に作業班の移動もする方もいる。

- ・定員20名の所、登録者56名おり、曜日ごとで出勤者が変わるシフト制で働いている。施設外就労も柱の一つになっているが、冬季より夏季の方が施設外就労の業務が多く、年間通しての安定というところには至っていない。企業と福祉事業者の双方がメリットを得られる関係になれるよう、お互いの情報を開示できる機会があると良いと感じている。長く在籍している利用者が「これで良い」と思ってしまうのか、感染リスクを減らしながら、事業所内で少しいつもと異なる取り組みを行っている。開設10年目の節目に当たるため、イベントを行う予定。

- ・先日の新聞に、釧路で障がいのある人を雇用している一般企業が73社あるとの記事を読み、施設外就労を受け入れてくれる企業だと感じ、施設外就労の受け入れ打診の連絡をしたが反応は芳しくなかった。アンケート結果にあったように、中小企業同友会に加盟している企業の職種などが分かればアプローチがしやすいと思う。企業側からも福祉事業所を訪問してほしいし、私たちも企業を訪問し出来る作業を見つけていくと可能性は広がると感じる。経営改善計画を毎年提出していて、それが言葉だけで終わらない様にしていく事が必要だと感じている。

- ・昔からいる利用者が入院や退職などがあつた。定員30名の所、52名在籍している。パンフレットを作成し、相談支援事業所など関係機関を周り、利用者確保に努めている。新

議 事 内 容

型コロナウイルスが5類に移行するため、少しずつ行事の再開を考えるも職員確保の問題もあり、思うように進められないもどかしさがある。

・定員20名のA型を運営し3年経つが、一般就労した方の在籍が無くなるとそれまであった助成金(特定求職者開発助成金)がなくなるのが痛手。希望される方は受け入れているが、「働いてみなければ本当のことは分からない」という考えで進めてきているが、退職に至るケースも多いのが実情だと感じている。

・3年前に辞めた利用者3名の補充が出来ておらず運営的に厳しい状況。工賃は徐々に上がってきているが、完全に元に戻ってはいない状況。物価高騰も痛手になっている。サンアビでの運動を再開しており、販売活動も徐々に利用者に行って頂けるようになってきている。

・30名定員、職員11名で運営している。知的障がいの方が多いが、最近は精神障がいの方も増えてきたので、安定した勤務に向け、精神障害についても学んで行きたいと考えている。他事業所における売り上げ増の工夫や実例を知りたい。コロナ禍の時期でレクリエーションが難しくなり、他事業所の取り組み方を知りたい。

・インボイス制度が今年10月から導入されるが、企業からのテープ起こしなどパソコンを使った作業で年間売り上げが200万円前後のためインボイス登録は行わない予定。相手先の企業によって登録を求められる事もある。他事業所がどのような対応をしているのかを知りたい。

定員20名の所、在籍10名で運営している。毎日通所されているのは4名程となっている。清掃の施設外就労の他にも施設外就労があり忙しく行っている。レクリエーションではチューリップフェアや焼肉のウェスタンなどに行っている。職員3名で運営しており、補填が必要となっている。支援学校からの問い合わせが何件かあった。

(4) まとめ

次年度の5回の部会のうち、6月は障がい福祉計画、障がい児福祉計画の策定に向け、地域でサービスそれぞれの見込み量がどれくらいになるのかを話し合い、釧路市に提言する為の準備を行う。2月は振り返り・次年度計画立案の準備を行う。残りの8月、10月、12月の3回の部会の内容については「就労選択支援事業」及び「アセスメント」に関する研修会や勉強会を実施する予定となる。また残りの2回については意見が多かった、「他機関との連携・支援学校との関わり」に関して何かしらの取り組みを考えていく。今後役員会で協議し決定する事とする。

(5) その他・事務連絡等

無し。

3. 閉会

以上